

う、そこに住む人方の意見でございますので、ただ、我々としてはこちらの白神温泉のホテルの方に出て逃げた方が、より国道に走って逃げやすいのではないかなというふうに考えていますので、この後、地権者の了解が得られるように我々も努力はしていきなさんかないわけですが、もう少しそこら辺は時間がかかると思います。

○議長（須藤正人君） 2番議員、再質問ありませんか。2番見上政子さん。

○2番（見上政子さん） よその家の土地をやみくもに走るといのは、これは当然許可を得なければならぬですけれども、ただ今の機会として、私は今ここをちょうど閉鎖してますのでね、この機会が利用できる、利用しやすいのではないかとということで聞いたままでありますので、是非こういうふうなのを、あとは行政の手腕ですので、ここは押しの一手で頑張ってもらいたいと思います。

それとあと、難聴対策ですけれども、ファガスと子ども園はちゃんとラジオが聴けたというふうなことです、やはり難聴、AM、FM、特にFMはもう聞こえない、全く我々の所は聴こえないですけれども、何かの場合、避難場所ではなくて停電とかいろんなことも予想されますので、早めにこれの対策、全ての所でラジオが聴けるようなこういう対策を考えてもらいたいと思います。

これは答弁ありませんので、これで私の質問を終わります。

○議長（須藤正人君） 2番議員の一般質問を終わります。

次に、9番議員の一般質問を許します。9番山本優人君。

○9番（山本優人君） 皆さん、大分お疲れでしょうが、もう少し頑張って聞いてください。

通告に従い、1点目、まちづくりの広報戦略について質問いたします。

町民が持つ八峰町の印象については、昔から八峰町に住んでいる人も新たに八峰町に来た人も、八峰町には何もないと思われている方が多いように私は思います。町民でさえ八峰町には何もないと思っている方がいるようですが、果たして「何もない町 八峰町」というイメージのまま、まちづくりを進めてよいのでしょうか。確かに町外の人になったつもりで八峰町のことを考えてみると、能代市に隣接しているためか影が若干薄いと感じます。8,000人程度の人口で、これといったイメージもなく、せいぜいハタハタ館、白神体験センターなどの施設と自然資源の白神山地、八峰白神ジオパークを有しながらも、残念ながらその存在性は薄いと言えるのではないのでしょうか。

先日、県南の人と話す機会があった時に「八峰町って能代の近くですか」と言われま

した。県内においても正確な位置すら認識されていないのが現状と、がっかりしました。

少子高齢化で人口が減少する時代となり、ただでさえ厳しい財政状況ですから、今後とも町財政は年々厳しくなることが容易に推察できます。そのため、全国の自治体では福祉政策や住民政策を充実するなど必至になってまちの良さをアピールし、企業の誘致や住民の移住に取り組んでいます。つまり八峰町にとっては、周辺の自治体だけでなく全国の自治体がライバルとなるわけです。企業や住む所を探している人々に魅力的な町であることを認識してもらう、つまりイメージ戦略が重要であると言えます。そして、イメージだけでなく魅力あるまちづくりを進めていかなければなりません。

インターネットなどで調べてみると、ここ数年で自治体もイメージ戦略や広報戦略立てながらまちづくりを進める時代になったと言えます。まず町民や町外の多くの方が持っている「何もない町 八峰町」というイメージを払拭すべきです。

八峰町のポテンシャルは決して低くはないとは思いますが、八峰町は、八森地区は岩礁景観や白神山地の景観を望め、体験センターやハタハタ館といった施設があります。峰浜地区には広大な農地を有し、水や緑も豊かで住環境を通してすばらしく、一方で農業も盛んで自給できる農産物もあります。さらにハタハタ、菌床シイタケ、長ネギ、梨など、優れた品質を持つ農水産物があります。このように八峰町は魅力あふれる町だと思います。

行ってみたい、住んでみたい、住み続けてみたい町と思ってもらうためには、地域資源を発掘し、その価値を高め、効果的に情報を発信しながら戦略的に町のイメージを構築していく必要があります。イメージ戦略を持ちながら地域戦略を生かしたまちづくりを行う広報戦略が必要だと思いますが、町長にお尋ねいたします。

次に、地域おこし、町おこしについて質問いたします。

ここ数年、日本各地であるがままの魅力を活用した地域おこしの一つとして、ご当地検定を行っている例が多く見られます。町の歴史、文化、自然、産業、食べ物など、その地域に関する知識を検定という形で試験を行い、一定以上の点数をとると認定証などが与えられるというものです。

秋田ふるさと検定をはじめ男鹿のナマハゲ検定など、全国で80件ほどの検定が実施されています。地域おこし、町おこしとして、ご当地検定はとても有効なツールではないかと思えます。

流行りだからと安易に取り入れては、すぐに飽きられてしまうのではないかとも思い

ますが、八峰町でご当地検定に取り組むとした場合、その第一義的な目的は、子どもから大人まで全ての町民が町の歴史、文化、自然、産業、食べ物など、町のことを知り、八峰町という町に愛情と誇りを持てるようになること、すなわち八峰町を誇りとする気持ちを確立することを目的とすべきと考えます。

2つ目の目的として、町外に住む人が八峰町に興味を持ち、八峰町を訪れてくれること、ひいては、そのことが地域を活性化させ、地域振興に繋がるのではないかと思います。八峰町民が誇りを持って来訪者に八峰町の魅力を話すことができるようなご当地検定を是非作っていただきたいと考えます。

そのためには、産業振興課、生涯学習課などが中心となり、様々な部署に協力を求めるような全庁的な取り組みが必要であります。町内の様々な視点で活動する活動団体とも協力しながら、八峰町に愛着を持ち、町の活性化をもたらすご当地検定を八峰町全体の取り組みとして行うべきと考えます。

そこで質問です。町を誇りとする気持ちを確立するためのご当地検定に取り組むべき考えはないか。また、町の魅力を発見してもらうには実際に見て触れて感じる体験が必要です。ジオパークポイントを中心とした史跡等を回るサイクリングルート、それからレンタル電動自転車の設置をして半日、一日過ごせる体験センターであってほしいと思います。

以上2点について、町長、教育長にお尋ねしたいと思います。

○議長（須藤正人君） 答弁の前に休憩をいたします。

2時15分、再開します。

午後 2時09分 休 憩

.....  
午後 2時15分 再 開

○議長（須藤正人君） 休憩前に引き続いて会議を開きます。

9番議員の一般質問に対し、当局の答弁を求めます。加藤町長。

○町長（加藤和夫君） 山本優人議員のご質問にお答えいたします。

まず、まちづくりの広報戦略についてであります。昨今、大都市周辺の自治体において、自治体のイメージやブランド構築のため広報戦略プランやシティセールス戦略プランなどが策定されております。具体例としては、都内の駅や車内に自治体のイメージ広告を提示するなど、自治体PRの手法も新しい取り組みによる広報戦略、シティセー

ルスが活発となっております。

この背景には、平成17年以降、日本の人口は出生者数を死亡者数が上回る人口減少社会へ突入したことが要因とされており、超高齢化社会に順応した自治体を形成するために、企業誘致と移住者、観光客等の確保が必要とされ、地域の魅力を内外に発信する広報戦略の重要性が認識されたことによるものと思っております。

これまでの自治体の広報活動は紙媒体が主流でありましたが、情報化の進展は目覚ましく、今ではインターネットは日常的に利用されており、情報の流通手段の多様化が進んでおります。高年層でもパソコンや携帯電話といったインターネット接続機器を保有している割合は高く、このような情報社会の変化に的確に応えるべく、従来の広報紙とあわせてホームページの充実や新しいメディアの活用といった多様なチャンネルを効果的に組み合わせた広報活動が大切であるとされております。

当町では、生薬栽培やアワビ養殖、日本ジオパークの認定など今後取り組んでいかなければならない課題を抱えており、また、秋田デスティネーションキャンペーン、白神山地世界自然遺産20周年記念や国民文化祭などのイベント、白神ブランド品の開発と既存の農林水産物の活用など多種多様な素材を有しております。このため、これらの事業を推進する中で町内外に良好な地域イメージの醸成と確立を図ってまいりたいと考えております。

山本議員ご提言の「広報戦略」につきましては、一朝一夕に確立できるものではありませんが、広報媒体の方法、情報提供のスピード化、町内外との双方向のコミュニケーションのあり方などに関して職員の意識改革を図るとともに、秋田県町村電算化共同事業の中でインターネット環境の整備、ホームページの更新、さらに戦略的広報として、急速に普及している多機能携帯電話を活用した「パーソナル広報」、双方向のブログ、フェイスブック、ツイッターなどの外部ソーシャルメディアを活用した「コラボレーション型広報」などにも取り組んでまいりたいと考えております。

財政面において、都市部の広報戦略、シティセールス戦略には及ばないものの、当町に適した広報戦略と地域イメージの普及を推進してまいりますので、山本議員からはこれからもご提言宜しくお願いいたします。

次に、「地域おこし、町おこし」について教育長への質問であります。地域振興の観点から私の方からとりあえずお答えをさせていただきます。

1点目の「ご当地検定に取り組む考えはないか」についてであります。特定の地域

に関する文化や歴史などの知識を測る試験、いわゆるご当地検定は、平成15年に行われた「博多っ子検定」が最初とされ、その後少しずつ各地で行われるようになり、京都・観光文化検定がマスメディアに取り上げられたのをきっかけに、地方にとっての格好の知名度向上手段及び地域振興策として各地に広がりました。秋田県内では、秋田商工会議所主催の「秋田ふるさと検定」と男鹿市観光協会主催の「ナマハゲ伝道士認定試験」があり、一定の成果を上げていると伺っておりますが、一方で受験者の減少から近年中止される検定も全国的には出てきており、単にブームに乗っただけの企画では失敗するようであります。

昨年、八峰白神ジオパークが日本ジオパークに認定されましたが、ほかの先進地では、単に貴重な鉱物や多様な地層・岩石だけではなく、地域の文化、歴史、産業、自然など広くジオパークと捉えており、地元の小・中・高校生がふるさと教育の一環としてジオパークを勉強しており、それがきっかけとなり郷土愛の醸成にも繋がっていると伺っております。

本町も八峰白神ジオパークを活用したふるさと教育の実践を検討したいと考えており、また、ジオツアーやジオ商品を充実させ、地域振興にも繋げてまいりたいと考えております。

山本議員が言われるように、ご当地検定がその町の文化、歴史、産業などを知るきっかけとなり、それにより地元住民は「郷土を愛する気持ち、郷土に誇りを持つ気持ち」が醸成され、また、他の地域の方であれば「その町に興味を持ち、応援者になり、ひいては地域振興に結び付く」という考え方は理解できますが、今あえてご当地検定を実施するかどうかは関係各課や町内関係団体とも協議の上、判断したいと考えております。

2点目の「ジオポイントを中心とした史跡などを回るサイクリングルートづくりとレンタル電動自転車の体験センターへの設置の考えはないか」についてであります。ジオポイントのルートづくりについては、現在、白神山地のジオサイト・ツアーとして商品化されたものがありますが、今後、ジオパーク推進協議会において、ジオポイント、史跡旧跡、景勝地などを回るルートづくりに取り組むことにしておりますし、商工観光連携会議においてもグルメとジオポイント、景勝地などをリンクした食べ歩きマップの作製も検討しております。

「レンタル電動自転車の設置」についてであります。山本議員ご承知のとおり、あ

きた白神体験センター前は国道101号が走っており、直線でスピードが出しやすく、頻繁に大型観光バスの出入りもあることから、レンタサイクルの拠点施設には適していないと考えます。また、最近の傾向として、ノルディックウォーキングやまち歩きなど自分の足で休憩を挟みながら巡り歩く愛好者が増えており、さらに、ジオポイントを巡る場合にはガイド付きの方が、より理解が深まり印象に残るものと思いますので、町の施策としてレンタサイクルの導入は今のところ考えておりません。

なお、新年度においてJRと連携して、岩館駅を起点に岩館の漁師町を散歩し、小入川鉄橋や滝の間海岸などのジオポイントを巡り、ハタハタ館・産直ぶりで休憩した後、あきた白神駅で解散するJRの「駅からハイキング」という旅行商品を売り込むことにしておりますので、それらの結果も参考にしながら今後の観光ルートづくりに生かしてまいりたいと考えております。

以上であります。

○議長（須藤正人君） 9番議員、1問目のまちづくりの広報戦略についての再質問ありませんか。9番山本優人君。

○9番（山本優人君） 広報戦略に関してビジョンはなかなかつくっていくのは、我が町の場合難しいなという話をされたわけですが、いずれ町としてもその財政の問題やら人的な問題で、それはかなり厳しいものだと思いますけれど、それにしても今後定住を促進する上でも都会に対してその内容をですね、ちゃんと理解してもらえるための方法なり、その内容、それからスケジュール等はやっぱり着々と検討して進めていくべきものと思っております。それについては、これから私の意見も取り入れて何か進めてもらえそうだと解釈するので、その辺は前向きかなというふうに考えておるわけですが、一つ気になることはですね、2年続けて決算報告書の付帯意見としてホームページの充実を求めていたわけですが、町の若者の一部から出ていた話ですが、今年度こそホームページ更新されるものとして期待していたわけです。ところが、それにもかかわらず、町民はもとより議会に対しても何ら説明もないまま、町民に対する広報の対応として誠に不誠実な、なぜホームページの更新がなされなかったのかという説明がない。私自身は内々聞いてて分かっているわけですが、議会の場を通じて町民に対してその説明をするべきではないのかなと私はこう思うわけですが、その点をご答弁願います。

○議長（須藤正人君） 1問目の再質問に対し、当局の答弁を求めます。加藤町長。

○町長（加藤和夫君） お答えいたします。

私もあちこち歩きますと、名刺を持って歩きますけれども、名刺の裏は地図が入っています。秋田県全図入って、八峰町の位置を示したのが裏側についている名刺を配って歩きます。というと、やっぱりおっしゃるように「八峰町」といった場合に直ちに八峰町の位置が分かる人ってなかなか少ないです。そういう状況です。そしてまた秋田県として、秋田県で何イメージ浮かびますかと、こういう質問したりすると、これもなかなかピンと、それさえも来ないですね。例えば、なまはげであるとか、竿燈であるとか、秋田美人であるとか、あきたこまちであるとか、そういうものは出てきますけれども、だから戦略というのはやっぱりなかなか確立するには時間とお金もかかるんじゃないかなと思います。たまたま県では今回、銀座四丁目にどでかい看板を「あきたびじょん」の「びじん」だすな、の看板を出して知事も自画自賛してますけれども、やっぱりなかなかですね大きくやればやるほどまたそれなりのお金もかけていかなきゃならないということにも繋がってきますので、先ほど申し上げたように今の情報化時代の中で様々なメディアがございますので、さっき言ったようにコラボレーション型広報であるとか、そういったいろんなものをですね駆使しながら、まず今可能性としてできるものを追求してまいりたいなというふうに思っております。

それから、ホームページについては非常に申し訳ありませんでした。これはお詫びをしたいと思いますけれども、本当は今年度に更新をする予定でございましたけれども、今回、町村会で電算の共同化やっています。そのものと合わせながらやった方が、費用面でもより効果的にできるという目処がありますので、平成25年度に実施する方向で頑張ってみりたいと。そして、さっきおっしゃったように私は分かりますけれども町民は分からないと言われましたので、経過についても何らかの形で分かるような形で少しお知らせをしていきたいなと思いますので、どうかひとつご理解をしていただきたいと思います。

○議長（須藤正人君） 9番議員、再質問ありませんか。9番山本優人君。

○9番（山本優人君） 自治クラウドの中でたぶんやるということで、実施、平成25年にやるという話でありますけれども、そのクラウドの中でソフトそのものはクラウドの中のソフトを使うんだらうと思うわけですがけれども、やっぱりその中身というものはその前に十分作っておかないとですね、「さあやみましょう」と言ってから動いたんではまた1年延びるわけです。ですから、その辺をちゃんと進めていっていただきたいと思えます。

ということで、もう一つ、このホームページだけの問題ではないわけですが、やっぱりこういう情報というか広報というか、そういうふうなものは戦略的にやっていかなければならないわけで、そのための担当部署というものが、しっかり専門性を持った人間を配置するべきではないのかなと。いろんな複雑な町の仕事が、例えば保険であれ、税金の滞納問題で徴収員の問題であれ、先日、国から下ろされた県の、道路の基準関係であれですね、専門性がだいたいこう要求されるようになってきているわけで、そういうふうなことも合わせますとですね、そういう専門的な担当する職員というものの配置が今後必要となると思うわけです。ですから、事この情報というか広報戦略に関しては専門的な職員を配置していただきたいと思いますが、どうでしょうか。

○議長（須藤正人君） 質問に対し、当局の答弁を求めます。加藤町長。

○町長（加藤和夫君） お答えをいたします。

まず、事前の準備をですね、しっかりしながら、平成25年度に目処をつけるように頑張りたいと、ホームページの関係ですね、そう思っています。

それから、戦略的な広告をする場合にですね、やっぱりそれなりの事前のいろんな何というかな、それなりの計画なり、それからアイデアなり様々なものが複合的に形成されて初めてどういう戦略でいくかというのが編み出されていくものだと思いますので、そういう面での準備はやっぱりしていかなきゃならないと思います。ただ、それがですね必ず専門家を配置しないとできないというわけでもないと思います。そういった方の意見も聞きながら、なおかつ町の考えているものと合致するような形での戦略を組み立てていくことが大事だと思いますから、そういう意味での内部で少し頑張ってみようというふうに思います。

○議長（須藤正人君） 9番議員、再質問ありませんか。9番山本優人君。

○9番（山本優人君） いずれ各課で情報というものはその課ごとに持っているわけで、それを情報として出す時は、各課が持ち寄った情報をですね全体で共有して出すようにしていただければもっとよくなるんじゃないかなということで、第1点目の質問を終わりたいと思います。

○議長（須藤正人君） 2問目の町おこしについての再質問ありませんか。9番山本優人君。

○9番（山本優人君） 2点目なんです、町民自身が町の宣伝してセールスマンとして八峰町の自慢できるようにならなければ、観光客も定住者も魅力を感じないわけですか



ら、そのためにいろんな歴史や文化等をクイズ形式にして検定という手法で楽しく覚える機会を設ける、このことがやっぱり町外の人にも興味を持ってもらえるものだと思うわけですが、その点について、この膨大な歴史や文化的な部分は教育委員会がそのデータというか、その中身を蓄積してあるわけですね。観光や生産物の情報は、観光振興課がまずその情報を蓄積していると。このプロジェクトの立ち上げ、必要であれば民間人も入れる必要があるわけですが、この点について教育委員会の方にも、教育長にお聞きしたいのはですね、先日、水沢小学校に行って、ICTの授業風景を見てきたわけですが、あのICTの授業内容は非常によかったわけですが、あの中で今後感じたのは、ふるさと教育というものがあの中でやればいいなど。それを発展していくと、ふるさと教科書をデジタル化することも必要なのではないかと。要は、町のその文化、歴史なんかをふるさと教科書を通じて電子版で見せると。そうすれば動画でも、例えば石川の駒踊り、そういうふうなものも実際に動画として見れるというふうな教育だってあるだろうというふうを感じるわけです。その辺の考え方について是非教育長の方向性を聞いてみたいと思います。お願いします。

○議長（須藤正人君） 当局の答弁を求めます。千葉教育長。

○教育長（千葉良一君） 山本優人議員のご質問にお答えします。

まず、よくテレビや新聞で様々な検定、特に秋田の場合、時期になると男鹿でハタハタ検定をやられたと、また、地魚伝道師の検定やられたと、別の市では、八峰町でとれてるマグロの試食会とかイベントをやられたという話を聞くと、私も負けたくない人間ですから頭に来て、ある酒席では山本議員とも何とかできないんだかという話をしたことがあります。そういうことで、私もそういう考え方がありまして、先ほど町長がお答えしました秋田ふるさと検定やナマハゲ伝道師検定のほかに秋田県ではハタハタ検定、それから石川理紀之介検定と男鹿地魚検定とか様々ありますけども、実際にハタハタ検定はどのようなものかなと思ひまして、実際にやっているところは男鹿海洋高校であります。我が町の子どもが来年度から一人お世話になる関係もありまして、この前お願い方々、話を聞きに行きました。工藤校長先生と堀川教頭先生の話をお聞きしたら、高校生が主体になってやっていると。時期になると1級受ける時は寮に泊まっていただいて、寮費を払ってもらって受けると、非常に好評であるという話をしました。その帰りに石川理紀之介検定をやっている潟上市の商工会に寄りました。たまたま藤原会長さん、また、三浦青年部長さんがおりましたですね、様々な話を聞いてきましたし、男鹿地魚検定等

については男鹿半島まるごと博物館協議会という形でやっていますけれども、実際はこれは本屋さんでやっているわけで、秋田市の無名舎でやっているわけです。全てやっているのが、営利を目的とするまでいかなくとも商工会やら観光協会で開催してやっているわけでありまして、行政の、教育長がこういうことを話聞きに来たと言ったら、「行政でやれば必ずだめになるよ」という話もされてまいりました。そういうことで、たまたま財団法人の地域活性化センターの研究員の伊藤重夫さんという名古屋教育大学の教授がおりまして、こういうことを調べている方がおりまして、まさしくその人の話を直に聞くことができました。やっぱりそれに関わっている方々がやるのは非常に盛んになっているけれども、行政が立ち上げたものについては下火になっていくと、そういう話をされてます。ただ、ここからが問題でありまして、先ほど山本優人さんがおっしゃったように、教育委員会ではやはりこの地域を知ってもらうために様々な資料等もやはり備えておりまして、その立ち上げる際に、そういう人たちの下支えをすることは教育委員会ではいくらでもしたいと思っておりますけれども、これを立ち上げて主催してということになってくるとやはり無理があるなということを、私も実際にここへ立ち寄って話を聞いてみてそういう感じがしました。幸いに山本優人議員は農業も漁業もですね様々造詣の深い方ですので、そういう方がむしろご指導いただいて、そういうことに我々もご協力していただくということであれば、これは鬼に金棒ではないかなと私は思っておりますので、何卒宜しくご協力を賜りますようお願い申し上げます。

以上であります。

それから、本題忘れまして。この前、子どもたちのICTの教育を見ていただきました。またたびたび話をするわけでありまして、5年生と6年生にはタブレットパソコンを配布して今勉強しています。実際に勉強しているのは今のところは、タブレットを使っているのは5年生がデジタル教科書を使って勉強しております。6年生は総合学習、また家庭学習とか遠足とかですね修学旅行とか外での運動会とか、それから体操の時間とか、そういうものに多く使っております。これは文部省の方でも、まだ先生の実力がそこまでいってないということでもありますので、その補助を受けてNTTの方でも5年生が一番扱いやすい。中学生になると進学やら勉強でそれを覚えるのも覚えさせるのも大変だ。それから、小学生だと1年から2年生までは、まだやはりそういうものを使うには慣れないと、そういうことで5年生をターゲットに絞ってやっております。そして5年生で使い方を覚えると、6年生では様々なもので使って今楽しく勉強している

ような状況でありますので、山本優人さんがおっしゃったようにふるさと教科書というものを、そういうものに電子化して6年生の授業にそういうものを生かしていくと。また、これから電子黒板を1年生から中学校3年生まで導入計画を今持っているわけありますので、そういうところで町の偉人とか歴史とかそういうものを知らしめていくということは非常にいいことでもあります。ただ、デジタル版にするには、教科書会社でも今1学年分作るのに1,000万円以上かかるという話であります。動画を入れると。そういうことありますので、財政的なことも考えてですね、動画までいかなくとも簡単にできる方法も模索して、是非これだけはというのをやっていきたいなと考えております。貴重なご意見ありがとうございました。

以上であります。

○議長（須藤正人君） 9番議員、再質問ありませんか。9番山本優人君。

○9番（山本優人君） 教育長から頼むとしゃべられたけれども、なるべくそのメンバーをですね募って是非また町の力も借りてそういうものが、検定ということで作ればいいなということを頑張りたいと思いますので、教育委員会、町の方からも、もし設立の際には協力をお願いしたいと思います。

ということで下の方の質問をしたいわけですが、自転車の関係なんですがね。この町には白神山地とジオパークの2つの自然遺産があるわけですが、世界レベル、国レベルの資源にもかかわらずですね、町民の関心が薄くて町が潤っている感覚がないわけですね。これはなぜなのかと。生まれた時からずっと見ている山並みが突然に世界遺産白神山地と言われても、生まれた時から遊んできた岩場が、稀にみる数万年前にできた奇岩と言われても、住民生活は少しも変わっていないからだなと思うわけです。これらの観光資源に来訪者を多く集める手法はいろいろあるかと思いますが、私はですね町民がその成果を感じられる行動は、来訪者が町内を闊歩している姿を見たり、時には自転車をその観光客が走っている姿を見ることだのと、それがああ八峰町にも観光客が街中をウロウロしているんだなということで、初めてその白神、ジオパークのよさというか効果というものを感じる機会なのではないのかなと思うわけです。そのためにまず私、今回提案したのはですね、町内の史跡やらジオポイントを歩くというのは非常に遠いので自転車と、しかも年輩者が多いので何だ、電動、電動付きの自転車であれば少しぐらいの坂でもスイスイ登っていくんですね。そういうことがですね、町内を自転車で乗って、国道、危険だというふうに言われながらも、ドライバーの目に触れるという

ことは、やっぱりそれだけ効果があるわけです。まして自転車は道路を走るものであってですね、遊歩道がない道路でないと安全でないというふうな考え方は私は間違っているなど。今、遊歩道のないところはですね左側の路側帯に自転車のマークをですねペイントしています。自転車が走る部分だよというふうな表示をしてあるわけですね。ですから、この町の道路が多少は狭いにしてもですね、その道路脇の左側に自転車が走る部分だというふうなペイントをしてもらえれば、そんなに危険ではないはずです。まして、中学生が通学に自転車に乗って歩いている現状も見ればですね、別に国道だから自転車が危ない、ハタハタ館の前はぶっ飛ばして歩く所だから危ないということには繋がらないのではないかと。むしろそういうふうにペイントすることによって、むしろ注意して走行するようになるわけですし、そこを例えば電車から見る、見られる、そういうふうなことが非常に効果があると私は思っていますが、その辺をもう一度お尋ねしてみたいと思います。

○議長（須藤正人君） 当局の答弁を求めます。加藤町長。

○町長（加藤和夫君） お答えをいたします。

道路上の自転車の今、能代市内でも脇に線を引いてやっているのもありますけども、一定の幅がないとあれはできないという基準になってはいますが、そのことは知っておいていただきたいと思います。

それから、今先ほども申し上げましたけども、自転車、それから電動付きの話も出ましたけれども、遠めに、今歩いて、ウォーキングで健康も兼ねながら、しかもじっくりとガイド付きで回りながらこの八峰町の良さをPRしていきたいというふうなことで様々な今企画を考えておりますので、それを積み重ねながら、また発展的にはそういうこともまた可能であればやっていくということしていきたいなと思いますので、まず当面はそういう格好でいきたいと思いますので、提言は受け止めておきます。

○議長（須藤正人君） 9番議員、再質問ありませんか。9番山本優人君。

○9番（山本優人君） 歩く方が安全だとは思わないわけですが、いずれ財政難のこともあるでしょうし、今取り組もうとしているウォーキングの問題もあると思うので、あえてやれとは言いませんが、いずれにしても自転車も活用して、より広範囲に来訪者がですね回って歩けるような体制はつくっておかないとだめなんでないのかなと思います。まして、例えばそのポイントポイントが非常に遠いのですから、何だ、自動車で送迎している状況では、全然観光客も楽しくないんでないかなというふうに私は感じます

ので、是非前向きに検討しておいていただきたいと思います。

以上で質問を終了したいと思います。

○議長（須藤正人君） これで9番議員の一般質問を終わります。

次に、7番議員の一般質問を許します。7番皆川鉄也君。

○7番（皆川鉄也君） どうもご苦労様でございます。特に傍聴者の皆さん、中には朝早くから傍聴でお疲れのことと思いますが、今しばらくご清聴のほどお願いを申し上げたいと思います。

私からは、本定例会に一般質問として3点ほど通告をいたしておりますので、順次質問をまいりますので、当局のやさしい答弁をひとつお願いをいたしたいという具合に思います。

それでは、まず第1点目として、本町における長寿対策について質問をいたします。

毎年進む少子化、高齢化、なかなか歯止めがかかりません。これに伴い、若者の定住化も思うように進んでいない現状であります。今、団塊世代の方々がちょうど高齢化にカウントされる時期に入っております。こういった方々が増えてまいりますと、間もなく本町の高齢化率40%突破するのもそう遠い日ではないだろうというような気がいたします。

そこで、先に厚生労働省で発表いたしました秋田県の長寿の平均寿命等について報道がございました。大変気になる統計の数字でございましたので、ちょっと私なりにこれらを調べてみたところでもありますけれども、日本人の平均寿命は男性が79.59歳、女性が86.35歳となっております。本県におきましては男性が78.22歳、女性が85.93歳となっておりますけれども、この数字は全国的に見ますと、男性は下から2番、女性は46番中の38番目に位置されているようであります。私を取り寄せました資料によりますと、少し古い資料になって恐縮なわけでございますけれども、本町の平均寿命年齢というのは男性が76.9歳、女性が84.2歳というような結果になってございます。古い数字ですので、新しい数字が出ますとまたいささかのポイント数、変わる可能性もあるわけですが、このような数字で表されております。先ほど申し上げましたように秋田県の平均を下回るような本町の平均寿命であるわけでありますから、全国から2番目に低い秋田県の平均、これをも下回るということになりますと全国最下位というようなことも、新しい数字が出ればですね予想されるようなことになるんじゃないかなという気がしたところであります。

そういった割に、先ほど申し上げましたように年々高齢化が進んでいくわけでありませけれども、高齢化が進む割には我が町、長寿の町とまではまだ行ってないんじゃないかなというような気がするわけでありませ。これまでもいろんな対策、町の方で講じられてきてはおるわけでありませけれども、今まで以上に長生きできる環境を整備するということもまた必要欠かざるべき町の要件じゃないかなという具合に思うわけです。したがいまして、これらに対する町の取り組み、方針等をお伺いをいたしたいという具合に思います。

次に、第2点目といたしまして、町営医科診療所の存続についてお伺いをいたします。

町営診療所の医師の確保問題につきましては、数回となく一般質問等で町の考えなりを問いただして、町の方向性を伺ってきたわけでありませますが、未だまだ町長が行政報告、あるいは予算編成方針でも述べられておるわけでありませけれども、まだ確保というところまでは至っておらないというのが現状のようでありませ。いろいろと各方面に手配をしながら確保対策に全力をあげていることは評価をいたすわけでありませけれども、ただ、残念ながら結果を見た場合には、まだおらないというようなことだろうと思うわけでありませ。地域医療の拠点として、あるいは地域住民のかかりつけの医院として果たす役割というのは、この前の予算委員会でもお聞きしたわけでありませが、年間1万2,000人近い患者を抱える診療所でありませから、これらの果たす役割というのは大変大きいものがあるという具合に思うわけでありませ。

聞くところによりますと、今の秋元先生は満60歳を迎えまして年度いっぱい退職というような話であつたらうと思うんですが、幸い4月いっぱい是在職をしていただけるといふことでありませが、月半ばで診療の方は打ち切って、残りの方は有給休暇で休暇をいただこうかなというような話をされておるといふようなことも聞きました。それから、薬の処方でありませけれども、2カ月分を処方しておるといふこともお聞きをいたしました。あるいはまた、新しくかかりつけ医院としての医療機関を探るための紹介状も先生の方で手続きをなさってくださいといふようなことも、患者さんにお話をさせていただいておるといふようなことでありませ。このようなことを考えますと、やはり空白状態をつくらないままで診療所を維持再開するといふのは大変困難性があるんじゃないかなという具合に思うわけでありませ。したがいまして、空白期間ができるとすれば、高齢者の方、あるいは交通手段を用いておらない方、今まで往診で先生から診察をしていただいた方々など、大変な大きな不安を抱えるわけでありませ。したがいまして、こ

れら対策につきましては万全を期すべきだと私は考えるわけでありますけれども、町長の考え方を是非お聞かせをいただきたいという具合に思います。

次に、3点目であります。地方公務員の給与費の取り扱いについてご質問をいたします。

国の臨時特例によりまして、地方公務員の給与削減を促すため、地方交付税が減額され、あるいはまた地方債の発行が検討されているようであります。元来、地方公務員の給与というのは、地方自治体の様々な地域事情等を考えながら、その自治体がそれぞれ給与体系をつくり上げていくというのが筋合いだろうと思うわけでありまして、国の方から、頭から予算を削減しながら給与を抑制するというのはいかがなものかなという具合に思うわけでありまして。

今、本町でも新年度予算、議会に提案をいただきまして縷々予算委員会で検討を加えているところでありますが、これらの公務員給与制度の在り方を本町はどのように考えて、どう取り組もうとしているのか、町長にお伺いをいたしたいと思っております。

以上3点について宜しくご答弁をお願いをいたします。

○議長（須藤正人君） ただいまの7番議員の一般質問に対し、当局の答弁を求めます。  
加藤町長。

○町長（加藤和夫君） 皆川鉄也議員のご質問にお答えをいたします。

はじめに、「長寿対策について」お答えします。

議員が先ほどおっしゃいましたけれども、日本人の平均寿命については、平成23年には男性が79.44歳、女性で85.9歳と、わずか50数年余りの間に男性で約16歳、女性で約18歳伸びております。これは医療技術の発達、食生活の向上、生活環境の改善とともに、国・県・市町村が様々な取り組みをしてきた結果と考えております。

我が町においても、町の総合振興計画において「笑顔がこぼれるやすらぎのまちづくり」を推進することとし、健康づくり対策の推進、医療体制の充実、地域福祉の充実、高齢者・障害者福祉の充実、子育て支援の充実に取り組んできました。

平均寿命が伸び日本は世界有数の長寿国となりましたが、その一方で生活習慣病の増加や急速な高齢化の進展に伴う新たな問題が生じてきており、それらへの対応が今後の課題となっております。

このため、すべての人々が健康で生き生きと暮らせるように、町民一人一人の生活の質を高めることができ、みんなで取り組める健康づくりを推進することを目的に、八峰